

## 3社の「まんが日本史」の比較

39期生

### I テーマ設定の理由

「まんが日本史」(日本の歴史)といえば、その名のとおり、現代っ子になじみ深い漫画で描かれていて、楽しみながら日本の歴史が学べる。そのせいか、小学生や中学生などに広く愛読されている。また、小学館の「まんが日本史」は、日本PTA全国協議会に推薦されているほどである。私は、この「まんが日本史」に非常に興味を持った。

ところで、この「まんが日本史」は、学研、集英社、小学館と3社ある。その3社の「まんが日本史」は、微妙に書いてある内容やとりあげかたが違うという話を聞いた。それで、早速、その数冊を読んでみると、確かに微妙な違い、また、その反対のまったく同じ点がみられた。このことから、私はこの3社の「まんが日本史」を、比較してみようと思った。

### II 研究方法

3社の「まんが日本史」を比較するといっても、全体を比較することは困難なので、3つのテーマを決めて、そのテーマで3社の特徴などを比較し、まとめていきたい。

- (1) 聖徳太子について
- (2) 大化の改新から壬申の乱にかけてのことについて
- (3) 大坂冬の陣・夏の陣について

この3つのテーマは、大阪やその周辺の近畿地方に、関係していることを選んだつもりである。このテーマで、書いてある事の詳しさ、内容(ストーリー)を比較し、まとめていきたいと思う。

### III 研究結果

#### (1) 聖徳太子について

3社を比較して見つけた違いの、その主なものをあげてみる。

#### 1) 蘇我氏と物部氏の争い(物部氏が滅ぶ、最後の戦)

学研「まんが日本史事典」: その戦の直前、厩戸皇子は四天王にお祈りし、そして戦は、厩戸皇子を含む蘇我氏が、物部氏を一方的にうつ。

集英社「日本の歴史」: 戦の直前、厩戸皇子は四天王にお祈りする。そして戦は、蘇我氏は、物部氏の弓矢の攻撃にひるみかけるが、すぐもりかえして、守屋の首を矢でうち、守屋は木から落ちて死んでしまう。

小学館「日本の歴史」: 蘇我氏は、物部氏を一気に倒そうとするが、物部氏の弓矢

の攻撃に歯が立たず、一度ひく。その夜、厩戸皇子は四天王の姿をさざみ、夜明け、その四天王に戦の勝利を祈る。そして、厩戸皇子を先頭に、一気に攻め込み、木の上にいる物部守屋の首をうち、守屋は木から落ちて死ぬ。

#### 2) 聖徳太子摂政となる。

学研: 馬子は、自分の政治のやりやすいように、敏達天皇のお妃を推古天皇として即位させたが、推古天皇は聖徳太子を摂政とした。というふうに、馬子の計算違いだったとでもいうように、書かれてある。

集英社: 馬子、自らが、厩戸皇子(聖徳太子)には摂政となってもらえばいいと、炊屋姫(推古天皇)に勧めている。

小学館: 集英社と同様に、馬子、自らが、厩戸皇子に摂政になって政治を助けてもらえば大丈夫と、炊屋姫に勧めている。

#### 3) 遣隋使の派遣

この話は、違いがおもしろいところなので、漫画も見ながら比較していきたい。

3社の漫画のそれぞれの特徴も、よくわかると思う。



#### 学研

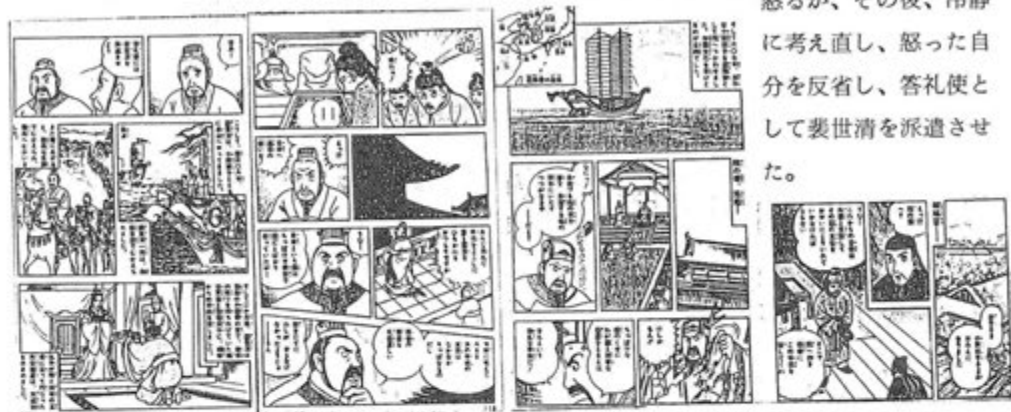
小野妹子が持って来た手紙を読んで、隋の皇帝、煬帝は怒り、彼は日本へ裴世清を送り、太子の人物と日本国の様子をさぐらせた。

#### 小学館

煬帝は、手紙を読んで怒るが、小野妹子が「……わが国では、こちらの文化や知識を、尊敬しております」と、必死に弁解し、その場をしのごうことができた。



▼集英社 煬帝は手紙を読んで怒るが、その後、冷静に考え直し、怒った自分を反省し、答礼使として裴世清を派遣させた。



(2) 大化の改新から壬申の乱にかけてのことについて  
3社を比較して見つけた違いで、最も大きく目立ったものをあげてみる。

中大兄皇子ら、入鹿を襲撃

学研：中大兄皇子と中臣鎌足は、蘇我石川麻呂、佐伯麻呂を味方につけた 石川麻呂が使者の文を読み始める時に、中大兄皇子が合図し、そして全員で一気に入鹿に斬りかかる。

集英社：中大兄皇子らが味方につけたのは、蘇我石川麻呂、佐伯子麻呂のほか、葛城綱田もいる 石川麻呂が上奏文を読んでいる途中、子麻呂と綱田が鎌足の合図でなんとかたとび出すが、途中でひるんでしまう。そこへ、中大兄皇子がとび出し、先に入鹿に斬りかかる。

小学館：蘇我石川麻呂しか名前はでないが、子麻呂や綱田らしい人はいる 石川麻呂が使者の書を読み終わる頃、中大兄皇子が合図するが、なかなか斬りかかる役のはずの2人がやらない。それを見て、中大兄皇子が、先に入鹿に斬りかかる。

この場面は、3社それぞれに話の展開が少しずつ違い、「遣隋使の派遣」と同様におもしろみがある。そこで、事実との比較ということで、実際におこったらしい様子と、まんが日本史のストーリーを、歴史書「飛鳥王朝と古代豪族」一渡辺英三郎著一を使って、違いを探してみることにした。まず、そのポイントをいくつかあげ、そこから分析していくとする。

一 歴史書のポイント 一

- ① 入鹿襲撃の日(645年6月12日)は、雨降りであった。
- ② 入鹿が儀式の式場に入ってきた時には、もう皇極女皇は出座しておられた。

- ③ 室に入る前、そこに待ち受けていた俳優が何か話しかけると、入鹿は笑いを浮かべて、剣を取って俳優に手渡した。
- ④ 石川磨が表文を読んでいる間に、子麻呂と綱田が襲いかかるという手はずであったが、2人が入鹿の威にうたれてたじろいでいる間に、朗読はもう終わろうとしていた。
- ⑤ 中大兄皇子が、物陰から躍り出して入鹿に斬りつけたのは、石川磨が入鹿から、どうしてそんなに震えているのかと問われ、苦しまぎれに「あまりに天皇の御そばに近く、恐れ多いので」と答えた瞬間のことであった。

以上の5つのポイントをもとに、3社を比較していく。

①について

学研には、その様子はなく、集英社では、途中から雨が降ってきている。小学館は右の絵のように、もうすでに雨が降り始めていたことを表していて、このことから、歴史書とほぼ同じことを描いているということがわかる。



②について

小学館では、この様子は描かれていなかったが、学研はそのとおり、入鹿は天皇よりもおそく来ている様子が描かれていた(集英社はよくわからない)。

③について

学研、小学館には、この話が描かれていなかったが、集英社では「俳優」らしき人が、「今日の儀式はくつろいだものにしようということで……」と言って、入鹿をうまくだまし、剣をとりあげる様子が描かれていた。剣をうまくだましとったという事を、わかりやすく描いていると思った。

④、⑤について

学研では、およそ④、⑤のような場面はなく、石川麻呂が読み始めたときに、中大兄皇子が合図し、中大兄皇子も中臣鎌足もいっしょになって、入鹿に襲いかかっているところから、④、⑤のような区別をしないで、話を大幅に短く、省略していることがわかる。集英社では、④の子麻呂と綱田がたじろぐところがほとんどなくて、2人とも思いきってとび出している。むしろ、とび出した後、たじろいでいる。中大兄皇子がとび出したのも、⑤の石川磨の言葉を聞いた瞬間ではなくて、子麻呂と綱田がたじろいだのを見た瞬間である。話の展開が少し違っている。小学館はというと、④と⑤をそのまま、漫画で表したようで、最も歴史書に、流れの筋道に近いことがわかった。

(3) 大坂冬の陣、夏の陣について

ここも(2)と同様に、3社で最も大きいと思われる違いを、あげてみる。

#### 方広寺の鐘銘事件

この大坂冬の陣、夏の陣の話は、学研まんが日本史事典には比較できるほど描かれていなくて、やむなく、集英社と小学館で比較することにした。

・方広寺の釣鐘に刻まれた「国家安康」の四文字は、家康の名前を二つに分け、家康を呪うものであり、「君臣豊楽、子孫殷昌」というのは、「豊臣を君として子孫の殷目(さかえ)を楽しむ」と読ませる下心だろうと、徳川方は豊臣方に、いいがかりをつけた。

↳ 集英社：①片桐且元が、誤解を解こうとする時、家康に直に面と向かって申し出ている。②「秀頼殿に大坂城を出て国がえするか、もしくは淀君さまを人質として江戸に送るよう」という条件は、家康が出したというふうに書かれている。③片桐は、薄田などに、豊臣を裏切っているという噂を耳にしると言われ、豊臣家にあいそがつきて、出ていった。

↳ 小学館：①片桐が、誤解を解くために駿府城に行くが、家康には会わせてもらえず、本多正純や金地院崇伝に反対にやり込められる。②「秀頼さまが大坂城を出る、または淀殿が人質として江戸にくだる」という条件は、まるで且元が、もう豊臣家に力がないということを知ってもらうために、勝手に考えたことのように書いてある。③それを怪しんだ、大蔵卿局が、淀殿に言ったため、且元をはじめとする和平主張者が大坂城を退散した。

#### Ⅳ 考察

以上のように、これまで3つのテーマから、3社を比較して違いを見つけてきたわけだが、ここに述べられなかった違いもたくさんある。これらの違いから、考えられる3社それぞれの「まんが日本史」の特色を、まとめていきたいと思う。その中で、先に言った、これまでに述べられなかった3社の違いについても、少し触れたいと思う。

##### 1. 学研まんが日本史事典

このまんが日本史は、全部でも3巻で、他の2社と比べると大変短い。その中で、現代までの歴史が載せてあるのだから、一つの出来事が短くなるのも当然だろう。また、細かい事は省略してあるので、小学館や集英社のまんが日本史には載っていても、これには載っていない事が多かった。例えば、蘇我馬子が崇峻天皇を殺したときの詳しい話、壬申の乱の中で、大海人皇子が吉野にこもったときのこと、近江朝廷との戦を決意したときのこと、それからその戦の経過の詳しい話、また大坂の陣の細かい経過の話などである。

あまり詳しくないと言えそうだが、それとは逆に利点もある。それは、聖徳太子や徳川家康などの生い立ちを、話の途中で説明しているところにある。読んでいて、とてもわかりやすい。人物の絵も幼っぽく描かれているので、最も親近感を覚えた。また、大きな項目に分かれているのは、他の2社でもそうだが、その中でまた小さな項目に分かれているので、まとまりがあって、理解しやすいと思った。そのほか、各章の終わりに、その時代の重要事項、活躍した人物の紹介などが設けられているのも他の2社には見られない、特徴の一つで

ある。

##### 2. 学習漫画 日本の歴史 集英社版

この集英社版は全18巻で読んでいて、かなり詳しいなという印象を受ける。一冊はだいたい6~8章に分けられているが、それぞれ、歴史の流れのまま、学研のように各章のまとめなどなく、ダイナミックなタッチで描かれている。というのも、登場人物の絵も他の2社より大きく、そのせいか、一つの事が描かれてあるページ数も3社の中で一番多いからである。しかし、そのせいでよく目立ってしまうのか、中には歴史書と、話の展開が少し違うと思われるところがあるが、それはわかりやすく、歴史の流れをとらえられるようにするためだと思う。これらの点からも、非常に楽しんで読めるだろう。また、この本の中で、崇峻天皇が殺される場所、倉山田石川麻呂や有間皇子がむほんの疑いがかかって殺される場所などは、大変詳しく描かれていると思われるところである。

このように、集英社版のまんが日本史は、ダイナミックに、そして詳しく、歴史を一つの流れのように描いているところが、特色だといえる。

##### 3. 学習まんが 日本の歴史 小学館版

小学館版のまんが日本史は、全20巻にまとめられている。初めて読んだときは、集英社の方がページ数も多いし、詳しいと思ったが、じっくりと何度も読み返すうちに、小学館の方ができるだけ省略せず、細かいところまで描き、最も詳しいのではと、そう感じるようになった。ただし、これは私が感じたことであって、読んだ人により、どれが詳しいと思うかは、もちろん異なるであろう。

具体的に言うと、山背大兄皇子が殺されたところ、古人大兄皇子がむほんの疑いで殺されたところ、壬申の乱の戦いの経過などが、大変詳しく描かれていると思われた。

このように、小学館版の特徴は、細かい事まで詳しく多彩に、描かれていることだと思う。

#### Ⅴ 感想

私は、この研究を始める以前は、「まんが日本史」に対してほとんど興味がなく、ましてや読んだことなど、一度もなかった。しかし、一度読んでみると、その独特なおもしろさに引かれ、何度読んでも飽きなかった。そんな中で、3社を比較することによって考察のところで述べたように、各社のまんが日本史の特色までまとめることができたことは、自分でも本当に満足である。この3社のまんが日本史全体を通して言えることは、それぞれに一長一短あって、どの面でも完璧なものというのではないが、だからこそそれぞれに、それぞれにしかない特徴が見られ、読んでいて、大変楽しいものだということである。ただ、私は、この研究に必要な巻しか読んでいないので、いずれは全巻読んでみたい、と思っている。